

日本漢方協会通信

28年4月

日本漢方協会認定漢方相談師制度の発足
今年3月より同准相談師を認定しました

平成28年3月20日に日漢協漢方総合講座（第25回）の修了式が、執り行われました。



会長挨拶：今井 淳会長



講師代表挨拶：秋葉 哲生先生



修了証授与
修了者代表：野中 敬司様



受講証授与
受講者代表：小野寺 颯輝依様



准漢方相談士認定証授与
代表：大塚 信子様

【修了証：62名】

青木佳子
青柳裕子
阿部敏江
安部真知子
石井千子
大塚信子
河合宏幸
木内智幸
本村聡睦
清野和理
紀陸三保
久保田幸重
洪小御忠
小古野達宜
古齋藤宜光
齋藤原馨
佐藤原碧
篠原文美
篠原清文
鈴木千佳
鈴木基眞
瀨田眞美
田中留美
高橋小裕
山口一美
田多千

浦岡利雄
出富友貴
友長敬勝
根野昌子
野濱純子
原平福知
宝島英子
松岡直順
松下千史
三宮滿里
山蔭朗子
山崎哲子
山崎雅雄
山下卓道
野辺美智子

高竹大子
大塚純二
岡崎坦造
小國洋子
野寺輝依
小野智洋
甲斐智友
葛木友里
金龜信子
小藤万子
近藤芳子
佐野淳子
真角俊子
住吉美早
津竹春子
中野活真
西田由起
箱長濱之康
土野美隆
星野悦道
前水尚子
矢柳敬隆
山内尚子
山田隆子
山邊温子
渡邊妙雅

漢方相談師については別紙のお知らせ
をご覧ください

下記の方に漢方准相談師の認定証を
授与しました。

准漢方相談師：48名

青木佳子
阿部敏江
安倍真知子
石坂一子
伊藤徹郎
海老名則子
大澤君枝
大塚坦造
岡崎信子
芥江あさ子
小野寺颯輝依
葛木きぬ子
河合元宏
菊本聡重
古谷野扇子
近藤万里
佐藤光孝
眞保淳子
角屋千恵子
高橋正明
田口ふじ江

千葉和
鶴見聡
出浦洋子
友利秀雄
中村さやか
野中敬司
箱田真弓
濱田之り
濱田昌則
土方康代
姫野美紀
宝力英子
松岡正之
三上順子
矢嶋道文
柳田明子
矢野順里
山蔭満里
山崎哲朗
山下敬子
山田卓久
山邊隆子
渡邊雅智

【受講証：46名】

阿部紀子
石坂一子
飯田裕子
岩野奈洋
宇野則英
梅老名原
海大君枝

寺澤捷年先生が三年間を掛けて明治期の達人・山田業精先生の『井見集』を電子入力され、このたび自費出版されます。明治期の名医の治験と論考の集大成です。事前予約の場合、特別価格でご購入できますのでご案内申し上げます。

文化遺産、今明治期の、世に顕る！
山田業精 原著『井見集』・附録のデジタル版・予約開始

寺澤捷年

本書の著者・山田業精先生は1850（嘉永3）年に生まれ、1907（明治40）年にお亡くなになっている。享年58歳であった。先生はその父君・山田業広（1808—81）の次男とし誕生し、儒学の学習と共に父君から漢方医学を学んだ。父君・業広先生は森立之らと並日本考証学派の泰斗であり、その業績は中国に逆輸出されたほどの学者であった。本書には父君の診療に陪席して見聞した明治5（1872）年から晩年の明治39（1906）年月までの治験や医論が記されている。

本書は治療経験が約80%、医論が20%の割合で記されているが、当帰四逆加呉茱萸生姜を例にとると、実に様々な病症に用いた経験30症例が記され、医論として、この方剤を成す大棗の薬能についての論説、あるいは本方に安易に附子を加えてはならないことの由などが詳細に記されている。

また、業精先生は高崎藩主の命によって東京大学医学部の前身である大学東校に学んだが、こで得た解剖学、病理学の知識を動員して東西医学の融和による「あたらしい漢方」を作上げようと努力していたことが分かる。

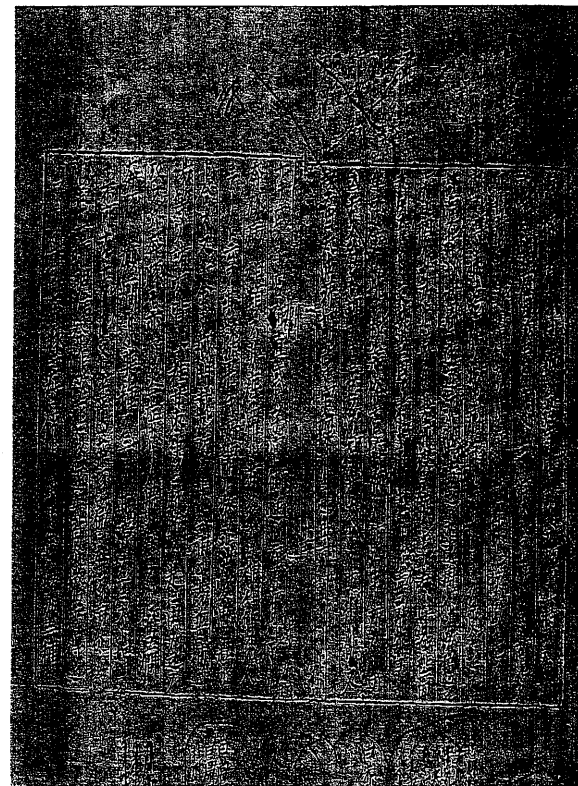
この業精先生の医療哲学は、当時、漢方復興運動に加わっていた守旧派の厳しい批判に曝れた。父君・山田業広先生が初代社主を務めた政治結社「温知社」から業精先生は脱退しているが、その大きな理由はこの守旧派との争いが無意味なことを悟ったからであると私は考えている。先生の形成された医療哲学は私どもが現在開拓している「和漢診療学」とも重なると感無量である。

鍼灸に関連した記述も多く見られ、私が当帰四逆加呉茱萸生姜湯証の診断と治療に「痞根」用いているのは本書のお陰である。

政治的には1895年・第8回帝国議会で抹殺された漢方医学の叡智を後世に書き残しておという信念の元に記された本書は先生の「遺言書」として存在するのである。この遺徳にの様に伝えるか。本書を熟読玩味し、自ら深く考えなければならない。

（注記）この草稿が書かれた明治末期は漢方医学の暗黒時代でありましたから、この『井見集』は出版されることはありませんでした。業精先生のご無念を寺澤が晴らします。

- 1) 毛筆草稿の『井見集』を完全に読解し、デジタル入力しました。
- 2) 難読字にルビを付しました。
- 3) 難解字に語釈を付けました。
- 4) 『臨床の目』という私のコメントを付けました。
- 5) 現代語訳はしてありません。索引を充実したものとしました。



出版予定

今秋を予定約700頁（菊版）

予約特別価格

8000円+税・送料（定価：1万円）

予約申し込み先

FAX 番号

: 076-482-6675（あかし出版総務部）

WEB 予約

: <http://www.akashishuppan.com>

申込み期限

平成28年6月5日

* 料金は本の発送後、振り込み用紙でお振り込み頂くこととなります。

伯夷・叔齊
閔人の人。孤竹國の王子で、兄弟。
屈原 楚の人。
曹一 だ単に。
蘇秦 蘇子の文豪。
現 蘇子の遺稿の姿。
唯々 蘇子の文豪。
意見に同意する。

誠言書説

客アリ、難シテ曰ク、聞ク、汝近頃詠書ヲ研究セリト。汝ハ三世ノ漢医名家ノ嗣子ナリ。宜シク旧学ヲ確守スベシ。縦今道路ニ僻蹊ニストモ、日新医学ヲ攻ムベカラズ。伯夷・叔齊ノ餓、屈原ノ溺、其精神志氣ノ憂サルヤ慕イテ做ツベシ。汝何ゾ志厚カラザルヤ。余、頭ヲ低レ、黙シテ答エザルコト三十分許、乃チ頭ヲ擧ゲ、目ヲ張り声ヲ劬マシテ曰ク、余、詠書ヲ研究スル理由、二ツアリ。往年、藩主ノ命ヲ承ケ、大学東校ニ入り、東寮生トナリ、石黒先生ノ教ヲ受ケ、詠書ニ就テ七科ノ学ヲ研究セリ。固ヨリ、驕味ノ質、曹二記憶ニ乏シキノミナラズ、更ニ怠惰ナルヲ以テ、常ニ衆賢ニ後レ、僅カニ三・四科ヲ卒フルノミ。其際、故アリテ帰県シ、終ニ再ビ其学ニ就クヲ得ズ。因循今日ニ至ル。毎ニ、全科ヲ果タサズシテ君命ヲ辱カシムルヲ憾ミ、時々其書ヲ翻開スレバ、不思落涙涕セリ。然レドモ、敢テ之ヲ人ニ談セズ、唯自ラ以テ遺憾トナスノミ。是詠書ヲ研究スル所以ノ一ナリ。医ノ学ヲ至テ大矣、至テ広矣。一二擧テ足レリトス可カラズ。苟モ済生ニ益アレバ、藜藿ノ膏モ亦取ルベシ。況ヤ精密ナル学術ニ於テテラヤ。是詠書ヲ研究スル所以ノ二ナリ。今ヤ、駁撃、或ハ誹謗ヲ被ルトモ、断シテ詠書ヲ廢セズ、益進テ研究セントス。客唯々トシテ去ル。時、明治十九年十月。

【臨床の目】

この一文は山田業精先生が当時の苦しい心情を吐露したものである。明治政府によって漢方は公的な医学教育の場から排除された。明治六（一八七三）年の医制の発布がこれである。日本の近代化にとって漢方は無益かつ有害とも考えられた。

そこで、漢方の存続運動が起こった。明治二一（一八七九）年に設立された温知社である。その主役が山田業精先生の父・山田業広、浅田宗伯、浅井国幹らであった。彼らの主張は西洋医学と漢方医学を並列して認め、医師免許も別立てで与えるべきであるというものであった。現在の中華人民共和国や韓国はこの形態を採用している。しかし、当時の政府、帝国議会はこの陳情を採用せず、明治二八（一八九五）年、帝國議会はこれを否決し、温知社運動は終焉を迎えた。歴史的に見るとこの議会对する請願の時期は如何にも悪かった。この前年に日清戦争が勃発し、明治二八年三月にこの戦争は終結したが、その講話条約締結にあたって、所謂三国干渉が為された時期であったからである。富国強兵、欧米列強に追いつき追い越す。これが国是であったわけ、陳腐であり、かつ旧藩藩体制を支えた漢方医学を顧みることがなかつたのである。この間、山田業広らは皇漢医学講習所を設立し附属病院も設けた（一八八三年）。

本書の附録にはこの病院での経験も多数記述されている。ここに登場する石黒先生は後に軍医総監となる石黒忠憲である。この友人の助言は誠に妥当で、漢方医学のバラダイムを大事にして、日新医学（西洋医学）のバラダイムに惑わされるなどというものであるが、山田業精先生は西洋医学にも学ぶべき者があると。医学・医療の目的は患者の救済であって洋の東西はないとの立場が伺われる。